

令和六年度

滝川第二中学校 入学考査 問題

B日程

国語

(五十分・百五十点)

注意事項

- 1 問題は1ページから14ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内わくないに記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 4 受験番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督かんとくの先生の指示に従いなさい。

受験番号					氏名	
		—				

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。)

最後に、上野千鶴子名誉教授が述べた二〇一九年(平成三十一年)四月十二日の入学式祝辞を見てみましょう。

この祝辞はマスコミでもずいぶん話題になり、ネットでも(A)「両論が飛び交いましたので、だいたいのご存じの方も少なくないと思いますが、その取り上げられ方には良くも悪くもある種の^①バイアスがかかっていたのではないかというのが、私の印象です。つまり語り手が著名な^②(括弧つきの)「フェミニスト」であるという先入観から、この祝辞を「長いあいだ女は差別されてきた、そうした土壌を作ってきたのは男の責任である」という、単純なフェミニズムの言説に回収してしまう論調が目立ったような気がするのです。

確かに高等教育において、女性が長らく不利な状況に置かれてきたことは否定できません。[※]第3章でも見たように、東京大学は創立以来ずっと女子学生を(B)「^③扱いしていませんし、ようやく戦後になって女子を受け入れたものの、初年度はわずか一九名にすぎませんでした。そして残念なことに、その後多

少の改善傾向が見られたとはいえ、^③このアンバランスな状況は七十年以上が経過した現在でもなお続いています。

上野千鶴子は^④「医学系の他大学で発覚した不正入試問題から話を始め、具体的な数字を挙げながら、一般に女子受験生のほうが成績優秀であるにもかかわらず、入学率は男子受験生よりも低いという事実を指摘した上で、次のように語っています。

最近ノーベル平和賞受賞者のマララ・ユスフザイさんが日本を訪れて「女子教育」の必要性を訴えました。それはパキスタンにとっては重要だが、日本には無関係でしょうか。「どうせ女の子だし」「しよせん女の子だから」と水をかけ、(C)「を引く張ることを、aspiration of cooling out すなわち意欲の冷却効果と言います。マララさんのお父さんは、「どうやって娘を育てたか」と訊かれて、「娘の翼を折らないようにしてきた」と答えました。そのとおり、多くの娘たちは、子どもなら誰でも持っている^⑤「翼」を折られてきたのです。

じつさい日本では従来、親が娘にたいして「女の子はこの程度でいい」という刷り込みを小さい頃から繰り返し、大きく広がる

「オブリージュ」(義務を負わせる) という動詞にふさわしい本物のノブレスになるべく努力することであり、彼らはその出発点に立ったにすぎないので。

上野千鶴子は祝辞の最後で、「大学で学ぶ価値とは、すでに知る知を身につけることではなく、これまで誰も見たことのない知を生み出すための知を身に付けることだ」と語っています。「知を生み出すための知」⇨メタ知識を獲得すること、それこそがノブレスとなるための第一条件であるという彼女のメッセージは、幸運にもその機会に恵まれた新入生たちに向けて投げかけられた厳しくも熱いエールであると、私は思います。

(石井洋二郎「東京大学の式辞 歴代総長の贈る言葉」『『ノブレス』になるために(上野千鶴子)』より。なお、作問の都合上、一部改変してあります。)

注 フェミニスト：全ての性が平等な権利を持つべきだという理由から、女性の権利を主張する考え方(フェミニズム)を支持する人のこと。

第3章：東京大学が1946年に初めて女子学生を受け入れたことが書かれている。

(ママ) こと：本来であれば「環境のおかげだったことを忘れないようにしてください」と言わなければならぬところを上野千鶴子氏が「おかげだったことと忘れないように」と「を」を省いたが、修正せずに上野氏が言った通りに本文では用いたことを示している。

ノブレス：本来は「貴族」という意味。「ノブレス・オブリージュ」で、「身分の高い者はそれに応じて果たさなければならぬ社会的責任と義務がある」という意味になる。

問一 (A)に入る、対義語となる漢字二字を組み合わせたことばを答えなさい。

問二 ——線部①「バイアスがかかっていた」とありますが、これと同じ意味になるように、【 】に入ることばを本文中から三字で書きぬきなさい。

【 】があった。

問三 —— 線部②「(括弧つきの)『フェミニスト』」とあります
が、筆者がそのように述べているのはなぜですか。その説明
として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答え
なさい。

ア 上野千鶴子氏が一般的なフェミニストの考え方にとらわ
れない人物だということを読者に示すため。

イ 上野千鶴子氏の祝辞は、ありふれたフェミニズムの言説
だろうと思われることを示すため。

ウ 多方面で活躍する上野千鶴子氏の、フェミニストという
面に着目していることを示すため。

エ 上野千鶴子氏は、フェミニストの中でも特別優秀とされ
る人物だということを読者に示すため。

問四 (B) に入る漢字二字のことばを答えなさい。

問五 —— 線部③「このアンバランスな状況」とはどのような状
況ですか。「く状況。」につながるように三十字前後で書きな
さい。

問六 —— 線部④「医学系の他大学で発覚した不正入試問題」と
ありますが、そのような不正が行われる社会のことを言い表
した表現を本文中から十九字で書きぬきなさい。

問七 (C) に入る体の部位を表すことばを、漢字一字で答
えなさい。

問八 —— 線部⑤「翼」について説明した次の文の「 」に
入ることばを本文中から六字で書きぬきなさい。

将来的に大きく広がる可能性があり、「 」を持つと
うすること。

問九 —— 線部⑥「男性社会を一方的に糾弾することを目的」と
する考え方を筆者は何と言っていますか。本文中から九字で
書きぬきなさい。

問十 — 線部⑦「受験競争を勝ち抜いて東京大学に合格した」と自体が『ノブレス』の証でもなんでもないことは、言うまでもありません。新入生たちがまずなすべきことは、これからの時間を使って、『オプリージュ』（義務を負わせる）という動詞にふさわしい本物のノブレスになるべく努力すること」とについて、「本物のノブレス」とはどういう人物ですか。——線部⑦より前の本文中のことばを使って四十字以内で書きなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（指定された字数には、句読点その他の符号も一字としてふくみます。）

ひばり森中学の新生は二十七人いましたが、男子生徒は真宙一人でした。そこで、真宙はどの部活動に入ろうかと考えている場面です。

人数が足りなくなって活動がなくなる、とされていたサッカー部は、完全に廃部になるわけじゃなくて、「球技部」と名前を変えて活動をするらしい。同じく、女子の部員がもともおらず、人数が足りなくなった野球部と合同になって活動を行う。公式戦にも、可能なようなら、どちらかから助っ人のように人を借りて人数を合わせ、出るという。——（A）、今年はコロナの影響で、そんな試合や大会が開催されるかどうかはわからないけど。

サッカーだけでない球技部は、先生たちもいろいろ考えた結果なのだろうけど、（B）入部するには抵抗があった。見学に行った練習では、うまい先輩も何人かいたし、それまで興味なかった野球もそれなりに楽しそうに思えた。だけど、なんだか

(C) こない。

「サッカーに限らず、いろいろ、他の部も見てみたらどうだ？」

担任の森村先生に勧められたけれど、それも気乗りしなかった。

入るなら絶対に運動部だと思っていたけれど、ひばり森にある運動部で比較的活動が熱心なのは、陸上部や水泳部、あとは弓道部やテニス部といった個人競技で、あまりピンとこない。唯

一、陸上部だけは自分が入ることがなんとなくイメージできたけれど、そこには、姉の立夏がいる。以前、下校途中に姉の部活

の先輩たちに囲まれ、ちょっかいを出されたことを思い出すと、あんな奴らの部に絶対に入ってたまるか、という気持ちだった。

運動部って決めていたのに、文化系に入るのも——なんだか、

「負けた」気がする。文化部も一応見学に行ったけれど、たったひとりの男子の新入生はやはり目立つ。でも、女子だらけの教室と違って、覗いた部活には男の先輩の姿もあって、そこはほっとできた。

だけど、ある日の放課後のことだ。廊下を歩いていると、ふいに、声が聞こえた。

「一年生のあの男子さ、たぶん、うちの部には入らないよな」

その日、真宙は、「パソコン部」への二回目の見学に行くところ

ろだった。

文化系の部の中で選ぶとしたらパソコン部がいいかな、と実は、その時まで真宙は思っていた。だけど、声は、そのパソコン部の活動場所であるパソコン室から聞こえた。「一年生のあの男子」は、この学校の中で真宙ひとりしか存在しない。

話しているのは先輩の男子生徒たちようだった。別のひとりが言う。

「そうか？ まだわからないんじゃない？」

「いや、でもさ、聞いたら、小学校までサッカーやってたって言ってたし、やっぱ、球技部とか運動系に入るんじゃない？ 文化系はなんかちよつと、みたいな感じ、顔に出てたじゃん。きつともう来ないよ」

「そっかー、じゃ、今年、男子入らないかー」

「まあ、仕方ないよな」

そこまで聞いて、真宙は、回れ右をして廊下を戻り、^①早歩きになって階段を下りた。途中、頬が熱くなって、周りの音がどんどん聞こえなくなる。足がもつれて、段を踏み外しそうになったけれど、危ういところでバランスを取り直して、ただただ、どんどん下る。

何だよ、と、^{つぶや} 眩く。声には出さず、心の中で。繰り返し、何だよ、何だよ、何だよ、と、眩く。

真宙が悪いわけじゃないし、(D) ^{かげぐち} 陰口みたいに後輩の話をしている上級生たちの方がひどいのだと頭ではわかるのだけど、この時はもうその場を去りたい一心だった。気まずくて、恥ずかしくて。先輩の声が耳に ^{よみがえ} 蘇る。

——文化系はなんかちよつと、みたいな感じ、顔に出てたじゃん。

出たのか、と思う。思ったら、泣きたくなった。そんなつもりじゃねえよ、と思うけど、^② だけど本当は真宙が一番、痛いほど知っていた。

どうしよう。バカにしていたように思われたのだろうか。

(E) 違う。うまく言えないけど、サッカーや運動部に未練があるのは真宙だけの問題で、文化系と運動系を比較してどう、という気持ちはなかった。さっき聞こえた先輩の言い方は、真宙が文化系やパソコン部を下に、軽く見ていると言いたげな、そういう言い方じゃなかったか。

そんなつもりじゃなかった。でも、真宙の、本当の本当の、本心はどうだったろう。文化系に入るのは「負けた」感じだと、そ

う思っていなかったか。

パソコン部のみんなで作ったという部のサイトのサイトはよくできていたし、自分もこんなのが作れたらいいなと思った。歴代の先輩がプログラミングで作ったというミニゲームもすごいと思った。

だけど、もう、絶対に行けない。どこの部活にも入れない。考えすぎて、頭がパンクしそうだった。

翌日、真宙は学校を休んだ。

朝、起こしにきた母に ^{とつさ} 咄嗟に、「ちよつと具合悪い」と言うのと、母が「ええっ!」と大げさな声を出した。

コロナのあれこれが始まってから、今は、みんながちよつとした体調不良にも ^{びんかん} 敏感になっっている。熱を測り、それが平熱であることを知ると、両親は、「どんなふう具合が悪い?」と ^{やさ} 優しく尋ねてきた。

休みたいけど、コロナを疑われるのは ^{いや} 嫌だ。「なんだか ^{ねちちゅう} 熱中症 ^{しやう} っぽい」と答えると、^③ 母は ^{なつとく} 納得したように頷いた。

「季節の変わり目だし、この暑さでマスク生活だもんね。大事を取って、今日は休もうか」と言ってくれた。中学にも電話をかけて、「ああ、そうなんですよ。熱はないんですけど、だるいよう

で」と、熱がないことを（F）強調しながら、欠席の連絡を入れてくれた。

去年までは、学校を休むと、共働きの両親は、昼食におかゆなんかを用意して、真宙を残して仕事に出かけて行った。実を言えば、昼間に家でひとりきりという時間でゲームをしたりもできたけど、今は、両親が平日でも家にいる。この春以来、（I）がすっかり当たり前になって、部屋で寝ているも、別の部屋で父がパソコンを通じた（II）会議をしている声が聞こえた。学校を休めても、せつかくの子どもの自由時間がちっとも謳歌できない。

でも——休むって、こんな簡単なことだったのか。

心がだんだん静かになって、そういえば、と少し前に学校から配られた文書の内容を思い出した。

『新型コロナウイルス感染防止に伴う、欠席の取り扱いについて』というその文書は、学校が再開されても、ウイルスの感染を不安に思う家庭や生徒は欠席を申し出てもよいこと、その場合は、自宅学習などの方法を可能な限り学校側も考え対応すること、そうした自主的な欠席は、欠席日数にカウントされないことなどが、丁寧に書かれていた。コロナを不安に思うなら、子ども

の気持ちは優先される——というわけだ。

学校からのその手紙が配られた日、真宙はたっぷり考え込んだ。ウイルス感染の不安を理由にしたら、大人はみんな、真宙にきつと長く学校を休ませてくれる。本気で演技して不安を訴えたら、今なら通る——。④心が盛大に揺さぶられたけれど、結果として、⑤真宙は今に至るまでその方法で学校を休むことはしていなかった。

不安は確かにあるけど、真宙は別に他の子と比べてその不安が特別強いわけじゃない。もっと真剣に、切実に不安に思っている子がきつといるんだと思ったら、それだけはやっちゃダメだ、と思った。

真宙の、山形のおじいちゃんおばあちゃんも、そういう切実にコロナを怖がっている人たちのひとりだ。おじいちゃんは数年前に肺の病気をしている。その時は手術をして大丈夫だったけど、今、もし、コロナにかかったら大変だ——そんなふうには母たちが話していた。だから今年は、お盆休みに山形に行くのは中止。真宙たちがウイルスを運んでしまってもいいから。

真宙に会いたいけど、会えないねえと、（II）でつないだ画面の向こうで話すおばあちゃんたちは本当に寂しそうで、買い

物も近所に住む叔母おばさんに頼たのみ、二人とも満足に散歩すら行けていないようだった。

彼らの顔を思い出したら、過剰かじょうに不安がるふりなんて絶対にしてはいけない、と感じた。それをしたら、もう本当に自分は山形にも行けないし、おじいちゃんおばあちゃんに会う資格も失ってしまふように感じる。

ベッドの上で、天井てんじょうを見つめる。

別々の部屋にしてほしいけど、真宙と立夏は、同じひとつの部屋を使っている。簡単な仕切りがあるだけの立夏の居住スペースに顔を向ける。机の周りに、中学の友達と撮とった写真とか手紙とかがたくさんあって、それをちらりと見て、すぐに目を逸そらした。いかにも学校生活が充実じゅうじつしていますって感じで、前はなんとも思わなかったのに、今は見るのが苦しい。

窓の外から、学校が終わったのか、小学生と思おぼしき声こゑがした。笑ったり、ふざけあつたりしている様子の、その声が頭に響ひびく。ちよつと前まで、オレも同級生とこうしていたのに。同じクラスだったあいつらはみんな、新しい中学でうまくやっているんだらうか。

目の奥おくに、熱くじわーっと涙なみだが滲にじんでくる感覚があつて、真

宙はあわてて目を閉じる。⑥ 今のはあくびか何かだ、と誰にともなく言い訳するように、目をこすった。

(辻村深月「この夏の星を見る」より。なお、作問の都合上、一部改変してあります。)

問一 (A) (F) に入ることばとして適切なものを、

次のア～カから選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません。)

ア でも イ もつとも ウ しっくり
エ すんなり オ とりわけ カ むしろ

問二 —— 線部①「早歩きになって」とありますが、なぜです

か。その説明として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 真宙が悪いわけではないのに、先輩の男子生徒に陰口を言われて腹立たしい気持ちが抑えられなかったから。

イ 先輩の男子生徒の陰口によってパソコン部から次の部活動へ気持ちを切り替えなくてはいけないとあせったから。

ウ 思ってもみなかった先輩たちの会話を聞いて、気まぐさ
と恥ずかしさを感じて、いたたまれなくなったから。

エ パソコン部に入ろうと思っていたが、先輩たちの期待に
応えられていないことがわかり、くやしくなったから。

問三 —— 線部②「だけど本当は真宙が一番、痛いほど知ってい

た」とありますが、真宙は何を知っていたのですか。本文中
のことはを使って、三十五字以内で書きなさい。

問四 —— 線部③「母は納得したように頷いた」とありますが、

このときの母の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エ
から選び、記号で答えなさい。

ア 息子がコロナに感染したのではないかとびっくりした
が、そうではなさそうなのにひとまず安心している。

イ 息子の具合の悪さが心配になったが、熱も平熱だったた
め、部活動のことが原因だろうと同情している。

ウ 最初はコロナを疑ったが、そうではなさそうなので、息
子の体調を心配して気づかう気持ちを失っている。

エ 気温を考えると熱中症になるのも無理はなく、息子の発
言をうそと知りながらも受け入れようとしている。

問五 (Ⅰ)・(Ⅱ)にはそれぞれカタカナのことばが入

ります。(Ⅰ)は「リ」から始まる七字、(Ⅱ)は
「オ」から始まる五字のことばをそれぞれ答えなさい。ただ

し、二つある(Ⅱ)には同じことばが入ります。

問六 ——線部④「心が盛大に揺さぶられた」とありますが、なぜですか。その説明として適切でないものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 家で一人きりでゲームができるから。

イ 家においても学校が勉強をサポートしてくれるから。

ウ 休んでも欠席日数にカウントされないから。

エ 学校に行っても楽しくないから。

問七 ——線部⑤「真宙は今に至るまでその方法で学校を休むこ

とはしていなかった」とありますが、なぜですか。その理由に

ついて説明した次の文の「 」に入ることばを「ア」

は九字、「イ」は十五字で、本文中から書きぬきなさい。

「ウ」は漢字一字のことばを考えて答えなさい。

「ア」をすれば、自分よりもウイルスの感染を「イ」
人に対して「ウ」向けできないと感じたから。

問八 ——線部⑥「今のはあくびか何かだ、と誰にともなく言い

訳するように、目をこすった」とありますが、このときの真

宙の気持ちとして適切でないものを、次のア～エから選び、

記号で答えなさい。

ア 小学校時代の同級生の新しい生活を勝手に想像し、置い

ていかれたようで切なく感じている。

イ コロナによって何もかも上手くいかなくなったが、負け

ていられないと感じている。

ウ 立夏の学校生活と比べて充実していない自分の学校生活

をくやくしく感じている。

エ 新しい環境になじめていないが、自分がつらい気持ちで

いることを受け入れがたく感じている。

問九 次の会話は国語の授業を終えて、休み時間に〜線部につ

いて友達同士が話している場面です。Dさんがあなただとし
て、【 】にあなたの考えを書きなさい。

Aさん 「真宙みたいに入学して同じ学年に男子一人という
のはつらいよね」

Bさん 「そうだよ。何の部活に入ればいいか悩^{なや}んでいる
し、かわいそうだよ」

Cさん 「もし私が同じ立場でもどうすればいいかわからな
いよ。Dさん、あなたが真宙と同じ立場ならこの場面
をどうやって切り抜ける？」

Dさん (あなた) 【 】

三 次の(1)〜(3)の空欄^{くうらん}に入る動物を二字以上のひらがなで答えなさい。

(1) ↓うし ↓とら ↓うさぎ ↓たつ ↓(2) ↓うま ↓ひつじ ↓
さる ↓(3) ↓いぬ ↓いのしし

六 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書

きなさい。送りがなが必要な場合は、送りがなも書きなさい。

- (1) 相手を敬う気持ちを大切にする。
- (2) 勇気を奮って相手に立ち向かう。
- (3) 障子を開けると十五夜の月が見えた。
- (4) 法案の骨子を固める。
- (5) 血統を守る。
- (6) 食品をチヨゾウする。
- (7) テンラン会に行く。
- (8) 気持ちよいカイセイの天気。
- (9) オサナイころを思い出す。
- (10) 不用になったものをステル。

